

政策立案のための統計データ



京都府政策企画部調査統計課主任

大倉 一祥 Okura Kazuyoshi

平成16年10月 総務省採用
統計局総務課企画調整係
平成18年 4月 関東管区行政評価局総務部総務課
平成20年 4月 人事・恩給局総務課総括係
平成22年 4月 統計局統計調査部国勢統計課
住宅・土地調査第二係
平成23年 4月 現職

データに基づいた政策形成

先日、「女性の給与は男性の給与の7割」というニュースを見かけました。この言葉を聞いて皆さんはどう思いますか。「男女格差はなくすべき」と思う方も多いでしょう。でも、ちょっと待ってください。この「7割」という数字は年齢や勤続年数が考慮されていません。この言葉だけを鵜呑みにして政策を打ち出すのは早計です。

「3人に1人が非正規雇用者」という言葉も良く目にしますが、あれも男女・年齢別に見るとまったく異なった姿が見えてきます。男性の場合、非正規雇用者のうち4割近くが60歳以上の方です。

新聞やテレビなどで良く統計データを目にしますが、単に統計データを使えば良いというわけではありません。1つの角度からだけでなく、様々な角度から現状を分析しなければ正しい姿は見えてこないのです。

効果的な政策を行うために、国で作成している統計をどのように活かしていくか。私は現在、京都府でそのような仕事をしています。

人を育てる

「『この案件はどうすれば良いですか?』と上司に聞くのではなく、間違っても良いから、まず自分の頭で考えること。その上で『私はこのようにすれば良いと思うのですが、どうでしょうか?』と相談すると成長できるよ。」

入省して半年位の頃に言われた言葉です。8年ほど前のこの一言を良く覚えています。部下を自分の駒として見るのではなく、一人の人間として成長させていこう。そう感じることができる職場です。

色々な分野の仕事がしたい

「せっかく国で働くのだから、色々な分野の業務を経験してみたい!」

これが、私が総務省に入省した理由です。他の省庁は名前から業務内容がある程度想像できます。では総務省は?統計や国家公務員制度、地方自治、通信関係など、他の省庁と違い、名前だけでは分からないくらい多種多様な業務を行っています。

様々な分野の仕事を経験できる。そこが総務省の魅力のひとつだと私は思います。